

大相撲九州場所鑑賞日記

横綱照ノ富士は今場所も休場。途中休場の場所から数えて三場所連続の休場になる。  
今年の納めの場所を終えて年間成績で見ると15勝4敗71休(勝率=0.167)となる見込みである。  
前年は42勝19敗29休(勝率=0.467)なので、さらに悪い成績になっている。  
フル出場した場所は、昨年は三場所、今年は一場所だけ。そろそろ周辺が騒がしくなる可能性がある。  
とは言え、横綱不振を理由にして、次の横綱・大関の粗製濫造は、極めて危険である。  
相撲協会としては、バランスのとれた英断が求められる「難局」にあるとすることができる。

<1> 序盤の印象(11月16日)

さて、まずは序盤の五日間を無敗で走った力士に焦点をあてて見たい。

- 一山本:前傾して前進しようという姿勢が感じられる相撲が続いている。しかし、よく観察すると頭を下げてい  
るだけで、腰と膝が折れていないので、つんのめった格好になっており、勝った相撲でも自分も前に  
ばったりと落ちている。もう少し膝を割って腰を落とさないといけない。
  - 熱海富士:やや腰高ではあるが、体全体で前進圧力を掛けており、まわしに手がかかるとグッと引きつけて前  
に出る相撲は、相手にとっては脅威。顎が上がらず、大きな体から繰り出す圧力が効果的になって  
いる。先場所11勝4敗で優勝決定戦まで進んだことで、自分の相撲に自信を持った感じがする。
  - 琴ノ若:受けて立つ相撲や、流れの中で勝機をつかむ相撲が目立ち、立ち合いから踏み込んでいく攻めの相  
撲が見あたらない。攻められてから旨くこなす相撲としては評価できるが、攻めていく強い相撲を取  
るようにしないと、墓穴を掘りかねない。
  - 豊昇龍:今場所は踏み込みも良く鋭い攻めも出ているし、素早さもあり、強さを感じる。少し自分の相撲に自  
信を持ち始めたように感じる。5日目の豪ノ山戦で見せた「立ち渋り」は、望ましくない。これまでも  
ムラが気になる力士だったので、中盤でどんな流れになるか、注目したい。
- この他に、星勘定はさておき、よい動きを見せていた力士は、美ノ海・玉鷲・湘南乃海・翠富士・豪ノ山といったところか。中盤で抜け出してくるのは誰だろうか。

<2> 中日を終って(11月19日)

中日を迎えるまでには紆余曲折があった。中日に勝ち越した力士(全勝)は一人もいないという事態になってしまった。そればかりか、トップを走るのは西前頭14枚目の一山本で、大関・関脇が後を追う形になった。

成績	大関	関脇	平幕
8戦全勝			
7勝1敗			一山本
6勝2敗	霧島、豊昇龍	琴ノ若	錦木、翠富士、熱海富士、竜電、玉鷲、美ノ海

- 一山本:遮二無二前へ出る相撲は評価できるが、頭が下がりすぎているのが気になる。頭が上がった時は棒立ちから繰り出す叩きやいなして、一言で言えば勝ち運に恵まれているという印象が強い。
- 翠富士:小柄ながら、素早い動き、繰り出す様々な技、粘り強い足腰、こういう力士がいてくれるだけで相撲が面白くなる。相撲の強い・弱いは体の大きさだけでは決まらないということを身を以て示してくれる。7日目の北青鵬との水入り、6分余の激闘など見せ場が多い。敢闘賞候補に挙げておきたい。
- 竜電:セオリーどおりの相撲を取れる何人かの一人にあげられる。今場所も立ち合いの鋭い踏み込みから最適な位置でまわしを取る、きれいで力強い相撲が目立っている。
- 美ノ海:十両在位が長かったので、新入幕と言っても30才。派手さはないが、腰の構えの良い前進相撲が光っており、それなりの成績を上げそうな感じがする。

<3> 10 日目を終って(11月21日)

中日から二日経っただけで様相が変わってきた。

○平戸海:序盤三連敗でスタートして、どうしたのかなと心配したが、四日目からは持ち前の低い姿勢で素早く踏み込み、前まわしをとると力強く攻め立てる。しかも休みなく動くので、相手は考えている内に運ばれてしまう。教科書どおりのきれいな相撲でしかもスピードとパワーがある。どこまで行けるか。

○琴ノ若:腰が高くやや伸び気味で相撲を取るのが欠点だが、体ごと前へ出て行く相撲で相手を圧倒している。攻められた後も踏ん張って逆転する場面が多い。自分から踏み込んで主体的に攻めていく相撲よりも、守ってから攻める相撲や、守りながら勝機をうかがう相撲が目立ったが、少しずつ攻めが目立つようになりつつある。

○霧島:中日を過ぎてから少し相撲に落ち着きが見られるようになってきた。何となく心配しながら相撲を取っているような感じが見受けられ、やや迫力に欠けるところがあるが、少しずつ持ち直しているのか。

○貴景勝:持ち前の突き押しが出てはいるが、どことなく迫力に欠ける。膝に余裕がなく、若干棒立ち気味で動いているせいだろうか。前進圧力の強い豪ノ山、明生、朝乃山に敗れているところから見ても、膝が万全でない状態で、必死に相撲を取っているという感じがする。

ここまでの流れを見ると、今場所も優勝ラインは 12 勝 3 敗か 11 勝 4 敗というところだろうか。

成績	大関	関脇	平幕
8 勝 2 敗	霧島	琴ノ若	一山本、熱海富士
7 勝 3 敗	貴景勝、豊昇龍		翠富士、竜電、平戸海、美ノ海

NHKが一人で「綱取りだ!」「大関取りだ!」と騒ぎまくっているが、騒ぎの対象となっている力士は皆黒星を並べ始めた。そっと静かに見守っていれば、時が経つにつれて「安定的に 10 勝以上を揚げられる三役力士」が育ってくる筈なので、祭り囃子のような騒ぎ方はやめた方が良い。今は静かに見守るべき時だと思う。

<4> 11 日目を終って(11月22日)

○一山本:関脇大栄翔との対戦が組まれた。本格的な突き押し相撲の「速さ」と「力強さ」の前に全く力が出せないままに飛ばされて、格の違いを見せつけられた。昨日の平戸海戦に続いて連敗し、3敗に後退。

○平戸海・翠富士:その平戸海も、翠富士との小兵・技巧は対決で敗れて4敗に。勝った翠富士は3敗を堅持。この二力士の相撲は、正攻法でもあるし技巧を凝らした素早さもあり、しかも粘り強さがあり、目が離せない。

○竜電:頭であたって鋭い踏み込みと同時に前みつをがっちり取り、力強く引きつける相撲が、日を追って光ってきた。終盤の土俵でどんな活躍をするか楽しみになってきた。

○熱海富士:立ち合いの踏み込みがあって、体全体を使って前に圧力をかけて行く相撲が目立つ。前進圧力をかけながらまわしをさぐり、手にかかれば力強く引きつける。土俵際に攻め込まれることがあっても、余裕を持って体勢を入替えることができる。伊勢ヶ浜部屋で、日馬富士・安美錦などの指導を受けて育ったことがよくわかる。そろそろ上位力士との割りが組まれるので、どうなるか。過去に一度上位陣と優勝決定戦まで体験しているので、熱海富士の存在は無視できない。

○琴ノ若:少しずつ立ち合いの踏み込みが強くなってきて、体軀を活かした寄り身が見えるようになってきた。攻められてから盛り返す相撲から、攻めの強さが主体の相撲になってくれば負けない相撲になってくと思うのだが……。貴景勝を蹴落としてトップグループに残ったが、この先どうなるか。

成績	大関	関脇	平幕
9 勝 2 敗	霧島	琴ノ若	熱海富士
8 勝 3 敗	豊昇龍		翠富士、竜電、一山本、

○霧島:少しずつ霧島らしさが出てきて、いつの間にか先頭集団に残っていた。

<5> 12 日目を終えて(11月23日)

終盤戦が進み、直接対決や下位と上位の対戦が組まれて、徐々に篩の目から落とされ始まった。

- 一山本：平戸海・大栄翔に二日連続で完敗したが、この敗戦から得たものらしく、立ち合いからのスピードと猛攻で錦木を土俵外に吹き飛ばして、3敗を堅持。「負けて覚える相撲かな」とは良くも言ったものだ。
- 竜電：高安の鋭い攻めに敗退して、この表から消えた。
- 熱海富士：大関戦が組まれたが何のその、豊昇龍との激しい攻防の中で突き落として破った。豊昇龍の不安定さを指摘する声と、熱海富士の力強さと果敢さを称える声が錯綜していた。
- 霧島・琴ノ若：NHKのアナウンサーは例によって先走り、「琴ノ若が優勝すれば一気に大関昇進もあるのでは」とはしゃいでいたが、解説者に相手にされなかった。二敗同士の直接対決は霧島が征した。霧島の巧さと速さが勝っている感じだった。

成績	大関	関脇	平幕
10勝2敗	霧島		熱海富士
9勝3敗		琴ノ若	一山本、

番付通り霧島が治めるのか、賜杯争い二度目の若手の熱海富士が飛び出るのか。それとも……まさか今場所も「11勝4敗の優勝」ということはないだろうね。残り3日間が楽しみになってきた。

<6> 13日目を終えて(11月24日)

- 一山本対翠富士：小柄な上にさらに重心を低く構えた翠富士が、巧みな身のこなしの中で一山本を引き落とした。大柄でしかも重心の高い一山本はたまたま落ちてしまった。翠富士の巧さが光った。
- 熱海富士対高安：高安の強烈な攻めの前で、熱海富士はかなりの苦戦を強いられたが、よく耐えて機を狙って揺さぶった後で押し出して勝った。左まわしをしっかりと握ったまま、腰の構え良く高安に付いていった熱海富士の巧さと粘り強さが目立った。
- 琴ノ若対竜電：立ち合いの踏み込み、低い姿勢での前みつ取り、頭をつけて強い引きつけ、終始竜電ペースでことが運んだ。琴ノ若は立ち合いの踏み込みもなく仕切り位置で立って相手を受け止めただけのように見えた。立ち合いで、大きく一步踏み込み、二歩目を運びながら手が仕事をするという立ち合いの基本の点で、琴ノ若の未熟さが見えた一番だった。
- 霧島対大栄翔：大栄翔の鋭い踏み込みに対して、霧島も踏み込んでがっちり受け止め、攻防の中でタイミング良く叩き霧島が勝ち星を得た。一連の動きの中で、霧島の腰の構えが安定しているのがよくわかった。霧島の顔が、日を追うように勝負師の表情に変わってきた。

成績	大関	関脇	平幕
11勝2敗	霧島		熱海富士
10勝3敗			
9勝4敗	貴景勝	琴ノ若	翠富士、竜電、一山本

かくして賜杯争いのトップグループは崩れ、霧島と熱海富士の二人に絞られ、11勝4敗の優勝は回避できた。

この時点で、私見「今場所の三賞候補」について少し考えて見た。

殊勲賞：霧島が優勝したら、優勝力士に土をつけた高安・豪ノ山が浮かび上がる。

熱海富士が優勝したら、熱海富士自身が殊勲ということになるだろう。

敢闘賞：よく敢闘して場所を盛り上げた力士は誰か。熱海富士・翠富士・竜電・一山本。

新入幕ながら堅実な相撲で星を揚げた美ノ海。

けれん味のない正々堂々とした相撲で成長してきた豪ノ山あたりも揚げておきたい。

技能賞：技能的に優れた相撲を数多く見せた力士は誰かという視点で見直すと、熱海富士・竜電・翠富士あたりか。多少のムラは目を瞑るとすれば平戸海・美ノ海。

関脇で好成績を上げた琴ノ若は、優勝争いの中にはいたが先頭は走っておらず、結果として脱落してしまい、技能的に優れた側面はあまり感じなかったのが、候補としては揚げなかった。

<7> 14日目を終えて(11月25日)

○霧島対熱海富士：結びの一番に注目が集り、そこまでの取組は前菜のような感じになってしまった。

熱海富士は良い立ち合いではあったが、霧島の安定感のある落ち着いたさばきに軍配が上がった。結果として、優勝の行方は千秋楽までわからないが霧島が一步有利になった。

成績	大関	関脇	平幕
12勝2敗	霧島		
11勝3敗			熱海富士
10勝4敗		琴ノ若	一山本

○一山本: 竜電の竜電らしい相撲に対して苦戦しながらも叩き込みで勝った。一山本が場所中に腕前を上げたのかもしれない。

○玉鷲・高安: 39才の玉鷲と33才の高安が若手を退けて、9勝5敗と星を上げた。

○琴ノ若: 湘南乃海をさばいて10勝4敗となり、NHKは少々浮かれていたが、やや迫力を欠く相撲内容だった。

<8> いよいよ千秋楽(11月26日)

これより三役の緒戦、琴ノ若・熱海富士の取組に大いなる期待を掛けた人も少なからずあったろうと思う。

熱海富士は前傾姿勢に拘りすぎて頭が下がりがすぎたため、琴ノ若の引き落としに屈して4敗に後退。

大方の期待を裏切って、すんなり霧島の優勝が決まってしまった。

霧島は貴景勝を破って13勝2敗の成績で賜杯を手にした。

三賞は、殊勲賞・技能賞は該当者なし、敢闘賞に琴ノ若・熱海富士・一山本となった。

さてまたここで「来場所は霧島の綱取り」と騒ぎが起きることになる。安定した成績を保つことができる大関になりつつあるのは事実だが、この一年間の足跡を振り返ってみても、不安定さが払拭されたわけではない。

二場所ほどの実績を見て評価すべきであるように感じる。

また関脇琴ノ若の大関取りについてももう騒ぎが始まっているが、関脇としての実績はわずか二場所だけ。

しかも小結時代の成績をつなげてみても、10勝以上の成績を三場所以上続けたことはない。同様に二場所ほどの実績を見てからの方が良いように感じる。

本当に実力があるのかが確認できてからの方が納得性があるし、本人のためにもなると思うのだが。

	初場所	大阪	5月	名古屋	9月	九州	六場所計
霧島	東小結	東関脇	東関脇	西大関	東大関	西大関	62勝26敗 2休
	11勝4敗	12勝3敗	11勝4敗	6勝7敗2休	9勝6敗	13勝2敗	勝率 0.689
琴ノ若	西小結	西小結	東小結	東小結	東関脇	東関脇	56勝34敗
	8勝7敗	9勝6敗	8勝7敗	11勝4敗	9勝6敗	11勝4敗	勝率 0.622

赤字は優勝

霧島と琴ノ若についての騒ぎよりも、ここ二場所優勝争いの最終段階にまでからんだ熱海富士が、来場所どのような動きをするのか、こちらのほうが興味深い。毎場所基本的な技術をひとつずつ我が物にしているような感じがするので、どんな風に育っていくのかも注目する価値がある。

以上